



豊かな生態系や美しい景観を活かし、環境学習や親水の場を提供

## 生態系保全・親水



ため池が土石流を防ぐ砂防ダム役割を果たし下流の田畑や民家の被害を軽減させた

## 土砂流出防止

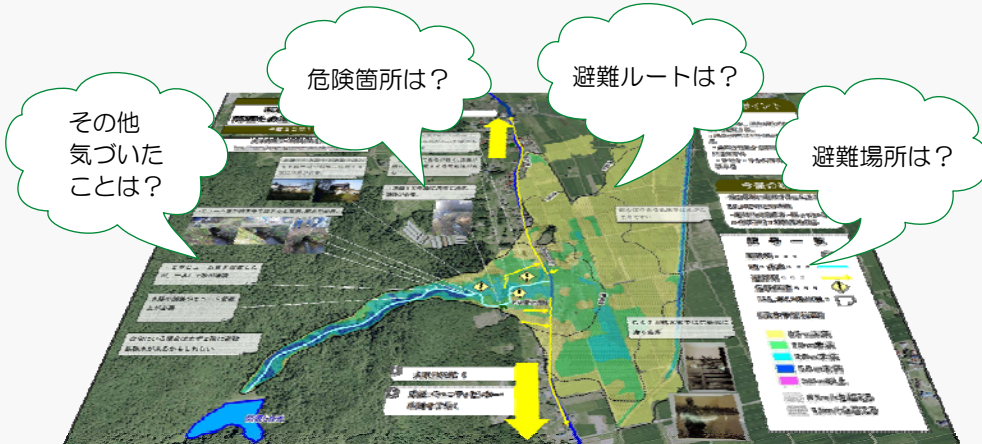


東日本大震災による災害を教訓とし、県内のため池では被害を軽減させる減災対策が進められている。米沢市下小菅にある間坂沢ため池では、住民参加によるため池ハザードマップづくりが行われ、地区内の危険箇所や避難ルートを確認した。

## 住民参加による

# ため池ハザードマップづくり

## 間坂沢ため池（米沢市下小菅）



ため池ハザードマップ（イメージ）

# ため池の役割

## 農業用施設の多面的な機能



ため池は、雨が少ない時でも農業用水が使えるように水をためておく人工の池のことで、その数は全国に21万箇所あり、そのうち山形県には約千箇所のため池がある。

ため池には、農業用水の安定確保という本来の役割だけでなく、洪水を防ぐ役割や自然環境の保全などの役割があり、多面的な機能として評価されている。

防災的な役割としては、山地に大雨が降った時に水を一時的にため込み、下流域の氾らんを防ぐ洪水防止の役割や、土石流による土砂の流出を防ぎ、下流の田畑や民家を被害から守る土砂流出防止の役割がある。

また、ため池は里地里山の自然条件の中にあり、水が張られた空間で貴重な動植物のいのちを育む生態系保全の役割や、水に親しめる身近な場所として住民に快適な環境を提供する親水空間としての役割もある。

平成25年7月18日から19日にかけての豪雨では、県内各所で甚大な被害を受けたが、ため池の防災機能により被害が軽減されたところもあり、その役割が確認できた。



豪雨により流入した水を一時的にため込み下流域の氾らんを抑制させた(写真は堆積した土砂のようす)



左写真のため池の隣にある沢で、氾らんにより道路、橋、水路などが大きな被害を受けた

## 洪水防止